

平成28年度 第2回外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	平成29年3月29日(水) 10:00 ~ 11:15	場所	市役所1号館14階1141会議室
出席者	兵庫県立大学経済学部教授 陳来幸、神戸大学理事・副学長(国際・入試担当) 井上典之、学校法人兵庫朝鮮学園神戸朝鮮初中級学校校長 金錫孝、神戸華僑総会事務局長 石鋒、ベトナム夢 KOBE 代表 ズオン・ゴック・ディエップ、在日本印度商業会議所ニシャット・トラバリー、関西ブラジル人コミュニティ CBK 代表 松原マリナ、ひょうごラテノコミュニティ代表 大城ロクサナ、第12期市政アドバイザー 江丕順 [敬称略]		
	(1) 平成29年度施策(在住外国人支援関係)について(国際課) (2) 就学前児童施設 指差しコミュニケーションシートの作成について(こども家庭局) (3) 中央区における「外国人市民も暮らしやすいまちづくり」の取り組みについて(中央区) (4) その他(次期の委員構成等について)		
	市長室国際部国際課(事務局)、神戸国際協力交流センター、こども家庭局子育て支援部振興課、中央区まちづくり推進課		

1. 開会

2. 議事

(1) 平成29年度施策(在住外国人支援関係)について

事務局より平成29年度施策(在住外国人支援関係)の概要について資料に沿って説明。

(委員)

- ・全市版防災アプリについて3言語以外の対応予定はどうか。

(事務局)

- ・現時点では英・中・韓の3言語だが、今後実施状況やニーズを見て検討されると思う。

(委員)

- ・例えば、(人数の多い)2世、3世の韓国・朝鮮籍の方は日本語能力が十分である方も多い。多言語対応をする際は、単純な国籍別の人数ではなく、ニューカマーや日本語能力等を踏まえた実態を見ることが重要だ。

(委員)

- ・ベトナム籍で言うと、定住者よりも留学生のほうが増えており、一般的に留学生は十分な日本語能力がない方も多いと考えられるので、何かが起こった際は困る方が多くなってきていると思う。

(委員)

- ・神戸市内だけでなく広域で連携しないと、情報発信の点で問題があるのではないかと。

(事務局)

- ・県や関西広域連合等との連携について、今後も検討を深めていくことになる。

(座長)

- ・公開しているハザードマップも市内のものだけではないか。

(委員)

- ・学校区毎等であるのではないかと。

(事務局)

- ・概ね市町村毎に作成している。

(座長)

- ・英・中・韓ということだが、感覚的に中国系の方は漢字表記があれば分かるのではないかと。

(副座長)

- ・対象人数に関しては、在住者だけではなく、訪日客も含めて考えているのであろう。

(事務局)

- ・訪日客に対しては、神戸市観光・ホテル旅館協会を通じて、各施設に多言語対応の防災カードの設置を依頼している。今後、より幅広く広報していくことが必要だと考えている。

(委員)

- ・多文化コミュニティフォーラムや全市版防災アプリについても英語の対応がされているが、神戸市の在住外国人の比率でいうと、英語圏の方は少ない。ターゲットは誰かということをはっきりさせ、ニューカマーや言語圏の実態調査をしても良いだろう。訪日客については、中国語圏が多いと思うが。神戸市の取り組みは全国的に見て進んでいると思う。

(事務局)

- ・対応言語数を増やしていきたいが、予算等の制約もあるので、研究していきたい。

(委員)

- ・ベトナムやネパール籍の方が増えており、日本語能力が高くない方も多い。また、他所から神戸に遊びに来たときに災害が起こることもありうるため、広く情報提供することが重要。

(事務局)

- ・ネットやメール配信等を行っているが限界もあるので、コミュニティの方にも日々顔の見える関係を活かして、防災訓練やイベントに幅広く参加いただき、様々なアプローチができるようにしていきたい。

(2) 就学前児童施設 指差しコミュニケーションシートの作成について

こども家庭局子育て支援部振興課より資料に沿って説明。

(座長)

- ・英語・中国語・ベトナム語の3言語ということであるが、保育士を対象としているのか。以前あったものを改良して作成したのか。

(関係部局)

- ・ホームページ上で公開しており、保育士に限定せず保護者も対象としている。以前あったものをベースに大幅にバージョンアップしている。

(委員)

- ・良い取り組みであり、3ヶ月に1度発行(部数500)しているニュースレターでの紹介等を行いたい。

(委員)

- ・韓国・朝鮮語がないようだ。人数が足りないということか。

(家庭局)

- ・11月にアンケートをとり、統計上ニーズの多い順で対応した。来年度以降は予算をにらみながら検討していきたい。

(委員)

- ・1年毎に少しずつ対応言語数を増やしてほしい。10年以上日本に住んでいるが、街中でみかける言語は英中韓の3ヶ国語ばかりで増えていない。

(委員)

- ・小学校にサポーターとして行くことがあるが、一番大切なのは先生の外国人生徒へ対する理解・意識であると思う。子どもは表現がストレートなので、トラブルになりやすいため、サポートが重要だ。県や市の役割が大きい。

(副座長)

- ・多文化共生については、教員免許の項目に入っておらず、学ぶ機会がない。そこに追加するのは法律もあって難しいため、採用後の研修等での対応が必要だと思う。

(事務局)

- ・庁内の会議等で共有していきたい。

(委員)

- ・人権関係の部署が担当となろうが、多文化共生への理解を深める取り組みをしっかりとやっていただきたい。

(事務局)

- ・研修所とも相談したい。

(座長)

- ・子ども家庭局だけでは対応は難しいと思う。

(委員)

- ・ペーパーを配るだけでは先生への周知は難しかろう。こういったことを知らない人は多い。

(委員)

- ・インド系の方は外国人学校に入学するケースが多いが、自身は3世、4世ということで子どもを公立の学校に入れた。当時は日本人以外の生徒が少ないということで子ども同士のトラブルがあり、先生に相談したところ、インドに関する理解を深めるために、子どもたちの前でインドの紹介をしたらどうか提案をされ、実際に行った。その後、トラブルはなくなり、文化祭でもインドの紹介等を行った。理解を深めるということで有用であったので、おすすめしたい。

(委員)

- ・尼崎の学校で色々な国を勉強する取り組みがあり、五輪もあったことからブラジルについて取り上げた教材が使われることがあって、コミュニティの関係者は喜んでいて、われわれも踊りを学校で教えるなどしており、そういったチャンスを活かしていきたい。

(委員)

- ・本題から少しずれたが、そういった趣旨を理解してほしい。

(3) 中央区における「外国人市民も暮らしやすいまちづくり」の取り組みについて
中央区まちづくり推進課より資料に沿って説明。

(座長)

- ・学習会について6言語で実施とのことだが、どのように実施するのか。

(関係部局)

- ・言語別に6班に分けて通訳には説明原稿を渡して訳してもらう。質問は通訳を介し、所管局が回答することになる。

(委員)

- ・兵庫区でもベトナム人が増えているが他区ではどうか。長田区では指差し式のベトナム語多言語対応カードがある。各区役所でも似たようなニーズを抱えていると思うので、情報を共有してほしい。

(関係部局)

- ・共有したい。

(委員)

- ・市の取り組みに協力してきたが、区役所の手続きには専門用語が多く分かりづらい。その中で、やさしい日本語等を使用することで対応できるケースもある。

(座長)

- ・国際課を通じて良いシステムを共有化できるようにしていただきたい

(委員)

- ・マイナンバーのこと等分からないことも多いので、最新の情報を多言語対応できるようにしてほしい。

(関係部局)

- ・全区の係長会議等で共有して、翻訳を我々に依頼してくれれば協力する。

(事務局)

- ・区政振興課という各区のとりまとめをする部署があるので、情報を共有したい。

(委員)

- ・学習会の資料はかもめん navi に掲載されるのか。参加できない人も資料を供覧できるようにしてはどうか。

(関係部局)

- ・掲載したい。掲載後に連絡するのでPRにご協力願いたい。

(委員)

- ・中央区民限定か。募集チラシはいつ頃できるのか。

(関係部局)

- ・中央区民限定ではない。開催の2ヶ月前頃にはお配り出来ると思う。

(委員)

- ・スペイン語がない。

(関係部局)

- ・前向きに検討したい。

(関係部局)

- ・スペイン語であれば当センターから通訳を派遣できるので、参加者が多ければスペイン語も対応していきたい。

(委員)

- ・ニーズが少ないマイノリティな言語は映像を作成し、ユーチューブにアップしてはどうか。

(関係部局)

- ・検討する。

(委員)

- ・文字が多い募集チラシは読まない人が多い。また、学習内容も興味を引くようなテーマが良いし、当日の主催者挨拶は短いほうが良い。

(委員)

- ・長時間の学習会では、集中力が切れてしまう。テーマを絞り、例えば、ごみの分別の実践等も入れてみるのも良いだろう。

(4) その他(次期の委員構成等について)

(事務局)

- ・2カ年の任期が28年度で終了することを受け、来期の委員構成に関しての意見をお聞きしたい。以前、留学生等の若い人を入れてはどうかとのご意見もあったがどうか。

(座長)

- ・新華僑(ニューカマー)へのアプローチ等が必要かと思うが、新華僑は組織がないので難しい面もある。

(委員)

- ・同感である。

(座長)

- ・韓国・朝鮮籍の方のニューカマーはコミュニティでカバーされているのか。その他はどうか。

(金委員)

- ・カバーされている。

(座長)

- ・他の国籍のニューカマーもカバーされているようだ。

(委員)

- ・新華僑に情報を浸透させるために、神戸華僑総会ではSNS等を情報伝達手段として用いている。その後、多くの新華僑の方々へ拡散していったらいいように思う。

以上